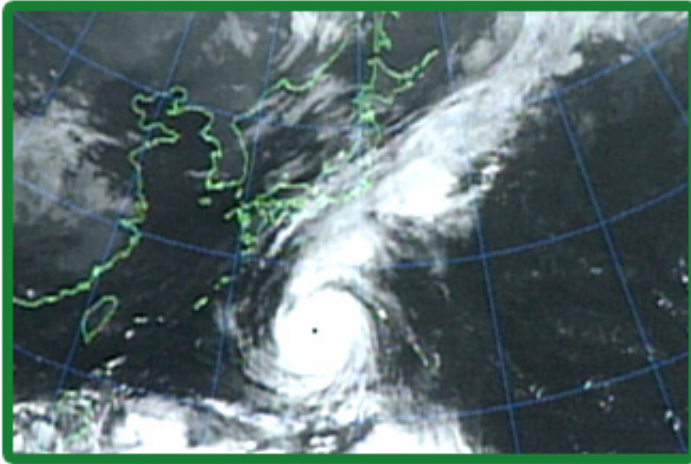


台風目ってなんだろう



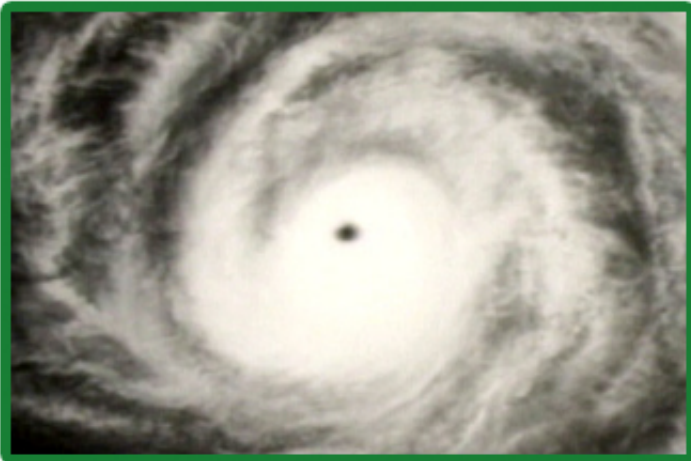
台風を気象衛星から見ると真ん中に黒く穴があいているようにみえることがあります。

これを台風目といいます。

台風目の場所には雲が少なく、強い風もふいていません。しかし、台風目の周りでは強い風がふいています。

気象衛星からみた台風目の周りの雲が厚（あつ）く、目がくっきりと見える時ほど強い台風だと考えられています。

地上の風が弱くなり青空が見えても台風が通りすぎたとゆだんしないようにしましょう。



南の海で発生したばかりの台風には目がありませんが、北へ進み発達していくうちに目が出てきます。

目の大きさは発達と共に小さくなり、一番発達した時の半径は10～20キロメートルほど。

その後、台風が弱まるにつれて大きくなり、半径は数十から100キロメートルにまでなるものもあります。ただ台風の風の強さが少し弱まったとしても、まだまだ風は強いので注意が必要です。

台風が陸にあがると、台風目の形はくずれてわかりにくくなります。